
いつもの場所。

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつもの場所。

【Nコード】
N7939A

【作者名】
風唄

【あらすじ】
男は散歩が趣味だった、男は女と出会った、とても不気味な女と、女は、いつも、同じ場所にいた。

（前書き）

私の三作目です、未熟ではありますが、最後まで読んでいただけると幸いですm（――）m

ある冬、この街に男が越してきた、

まだ、若い男が、

男は、散歩が好きだった、

だが、日々の忙しさで、男は散歩ができなかった、

ある日、男は散歩に出掛けた、

時は夜十時、回りは暗く、街灯さえ、たまにしか見掛けなかった、

しかし、男は満足した、

久しぶりにゆっくりできた、と、思った、

やがて、ある角を曲がった先に街灯が見えた、

そこには若い女性が立っていた、

死装束みたいな恰好で、まるで、葬儀の最中のような空気を発していた、

とりあえず、男は不気味に感じつつも、挨拶をした、

だが、返事は無かった、

男は不安になり、急いで歩いて行った、

女が、笑った、気がした、

翌日も、男は散歩をしていた、

昨日と同じ時間に、

また、昨日、女がいた所に着いた、

また、女は同じ場所に、同じ服装で、同じ空気を醸し出していた、

男はまた、挨拶をした、

挨拶はしないと失礼だ、

男の根底には幼いころの躰が染み付いていた、

だが、やはり、返事は無かった、

男は足速に立ち去った、

翌日、また、散歩をした、

今度は時間を変え、二時間遅く、散歩した、

女は同じ場所にいた、

男はまた、挨拶をした…

女の返事は、また、無かった、

男は、家に帰った後、考えた、

あの女は何なのだろう、と、

男は幽霊の類いは信じていなかったが、さすがに不気味に思えた、

翌日、また、散歩をした、

今度は午後五時に、

五時なら幽霊は出ないだろうと、

女は、いた、

男は、少し安心しつつ挨拶をした、

女の返事は、また、無かった、

男は、聞こうか迷った、

何故、いつもここにいるのかと、

だが、聞くことはできなかった、

失礼だから、と、

また、翌日、散歩をした、

今日は夜十時に、

女は、相変わらず、いた、

男は考えた、

遠回りになるだろうか、別の道は無いだろうか、と、

また、翌日、散歩をした、

今度は、いつもの場所を通らないようにと、

男は歩いた、

一時間、

ほかの道は、結局一時間かかった、

男は思った、これなら、あの道を歩いた方がマシだと、

また、翌日、散歩をした、

そして、あの場所に差し掛かった、

女はまた、いた、

男はまた、挨拶をした、

女の返事は、また、無かった、

男はまた、過ぎ去ろうとした、

だが、女が、初めて喋った、

何故、昨日は来なかったのか、と、

男は不気味になった、

とりあえず、昨日は、用事があったと、嘘をついた、

女は、そう、と一言言った、

男は足速に去った、

翌日、昼、いつもの道を通った、

今日は一人では無く、友達の女性と一緒にだった、

夜、また、散歩をした、

そこには、また、女がいた、

ただ、女の顔には憤怒の表情が浮かんでいたように思えた、

女は問いた、

昼の女は誰か、と、

男は、恐怖した、

昼に女はいなかった筈だと、

友達だよ、と、

そう、震える声で言うと、男は急いで逃げ出した、

女は冷たい目をしていた、

最後に、逃がさない、と冷たい声で言った、

翌日、男は家で冷たくなっていた、

その死はとても不自然な死に方だった、

顔は恐怖で歪み、体のいたる所から血が吹き出し、死んでいた、

ある日、私は、死んだ、

それから、誰にも認識されなくなった、

長い日がたった、

だれも、私に気付いてくれなかった、

だが、ある日、私に話し掛けてくれた人がいた、

私は嬉しかった、

泣きたいくらい、嬉しかった、

だが、私はなにも言えなかった、

嬉しすぎて、泣きたくて、

… になにも言えなかった、

翌日、また、彼は来てくれた、

とても嬉しかった、

翌日、彼は来なかった、

とても、悲しかった、

だが、二時間遅れ、彼は来た、

私は嬉しかった、

私は思った、

彼は、私に会いに来てくれているのだと、

翌日、彼はいつもより早く来た、

私は、ただただ、嬉しかった、

無理して、私に、早く、会いに来て、くれたのだと、
そう思った、

翌日も、男は、私に会いにきた、

私はとても嬉しかった、

いつまでも、この時間が、続けば良いと、思った、

翌日、彼は、来なかった、

私はとても悲しくなった、

何故彼は来ないのか、

ほかに女がいるのでは無いか、と、思った、

翌日、彼が来た、私は嬉しかった、

そして、私は初めて、話し掛けた、

彼の声は、私の全てを、癒してくれた、気がした、

翌日の昼、

彼が現れた、

ただ、私は隣には、女がいた、

憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、憎い、

あの女が憎い、

あの女を連れていた、男が憎い、と、思った、

夜に男はぬけぬけと、まだ、来た、

私は、聞いた、男は、答えた、

友達だと、

私にはわかった、

それが嘘だと、

私は、女を、男を、怨んだ、呪った、憎んだ、

男は逃げた、

私は、呟いた、逃がさない、と、

私は、やつを、殺した、

徹底的に恐怖を味合わせて、

徹底的に苦しむように、

徹底的に、殺した、

あの女だ…

次は…

(後書き)

今回はホラーに分類してみました、駄作ですが、評価、感想お待ちしております m (――) m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7939a/>

いつもの場所。

2010年12月31日22時00分発行